

平成22年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立吉城高等学校

学校番号 60

I 自己評価

1 学校教育目標	1 自主性を重んじ、個性と能力を伸ばし、豊かな知性と創造性、実践力を育成する。 2 豊かな心の育成と健康・体力の増進を図る。 3 社会の一員としての責任と自覚を促し、たくましく生きる力を育成する。	
2 評価する領域・分野	◇教育課程・学習指導	
3 現状・生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	・生徒、保護者から全体的に高い評価が得られるようになった。昨年度からの「高校教育のクオリティアップ支援事業」により、様々な改善がなされつつある。 ・「一人一人の可能性を伸ばす」「授業の教え方」について、生徒の評価が比較的低い。 ・24年度からの先行実施新教育課程が大学入試センター試験の科目設定によって左右される現状がある。	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	(1) 生徒による授業評価を実施、分析して授業改善を継続する。 (2) 公開授業、研究授業を計画的に行い、教科研究会を実施して指導力を向上させる。 (3) 少人数指導、習熟度別授業、進路希望別授業を充実する。 (4) 各初期指導を徹底し学習習慣を確立させる。 (5) 新学習指導要領に沿った新しい教育課程を研究する。	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	・高校教育クオリティアップ支援事業 ・全校での公開授業、研究授業の実施 ・教育課程委員会、学習指導委員会の運営	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1) 本校のあるべき姿の共通理解 (2) 公開授業と研究授業の実施、分析 (3) 新教育課程の編成	(1) 授業評価 (2) 定期考査、課題考査、模試等の統計 (3) 新教育課程案の完成	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
・研究授業、公開授業による指導力の向上 ・授業評価による全授業の点検、改善 ・教育課程委員会、学習指導委員会の活用 ・各分掌による到達目標(数値)の設定 ・各教科による新教育課程の研究と作成	① 授業は改善されたか。 ② 家庭学習時間が増えたか。 ③ 個に応じた学力がついたか。 ④ 新教育課程の作成状況 ⑤ 教育活動が円滑に行われたか。	A (B) C D A (B) C D A B (C) D A (B) C D (A) B C D
11 成果・課題	○授業評価等により個々の授業改善が進んでいる。 ○マニフェストの作成により意識の統一が進んでいる。 ●「一人一人の可能性を伸ばす」場は、授業のみならず学校行事など多様でたいへん多くあり、教師側もそれらの指導には十分な時間を割いている。様々な場で情報を発信し生徒や保護者の理解を得たい。 ●クオリティアップ支援事業が目指す「学力の育成」がそれぞれの生徒に実感されれば、「授業の教え方」の評価は高まる。授業改善への取り組みを地道に継続したい。	
総合評価 A (B) C D		
12 来年度に向けての改善方策案 ・保護者との連携を深め、子どもの成長をお互いに実感するために三者懇談を年2回実施する。 ・中学校や中学生の保護者へ、本校の取組みを積極的に広報する。 ・中学校との接続を円滑にし、家庭学習習慣を確立させるために、初期指導を充実させる。 ・25年度用新教育課程案を作成する。		

2	評価する領域・分野	◇ 生徒指導																		
3	現状・生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・「本校では、生徒のことをよく理解していて、一人一人に合った生徒指導をしている」、「学校は、高校生としてのマナーや社会規範を身につけさせることや、ふさわしい服装、頭髪等の指導の徹底を図っている」の項目に対して、比較的厳しい評価が出されている。 ・生徒指導に関する指導等、情報が保護者に充分伝わっていない。 																		
4	今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ol style="list-style-type: none"> (1) 倫理観や規範意識を育てる。 (2) 高校生活適応指導と教育相談活動を進め、「不登校」や「いじめ」の早期発見・対応に努め、自他の「人権と生命」を尊重する態度を育てる。 (3) 交通マナーや情報モラルを守る指導を進め、危機・危険回避及び危機管理能力を育てる。 (4) 家庭や関係諸機関と連携を密にし、地域と一体となって生徒の健全な生活態度を育てる。 																		
5	重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・学年会や関係分掌と常に連絡を密にし、全職員が情報を共有し、必要に応じて関係者会議をもち、迅速に対応する体制をとる。 ・生徒に対する諸指導の役割を、全職員で分担する。 																		
6	目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標																		
	<ol style="list-style-type: none"> (1) 「生徒指導の指針」及び「危機管理マニュアル」をもとに、指導の共通理解・共通行動を行う。 (2) 生徒及び職員に、機会ある毎に「生活規律・規範」への注意事項を具体的に提示し、その場で指摘・改善指導を行う。 (3) 生徒に関する状況把握と諸情報の共有を図り早急かつ適切な対応を行う。 	<ol style="list-style-type: none"> (1) 同一基準で指導ができ、基本的な生活習慣が確立され、規範意識が高揚してきているか。 (2) 生徒個々の人権が尊重され、安全・安心な高校生活を送られているか。 (3) 高校生活に適応できているか。 																		
8	取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価																	
	<ul style="list-style-type: none"> ・日々の生活点検指導（登校指導、交通指導、巡回指導等）を実施。 ・生徒、保護者へ、生活意識と規範意識高揚を図るための、職員へは指導のために、様々な文書配布、注意呼びかけ、講話等を実施。 ・「交通マナー遵守」の指導を実施。 ・毎月、職員会議後に「生徒理解会議」の実施。 	<ol style="list-style-type: none"> ①問題行動の状況や件数の動向。 ②「身だしなみ」や「マナー」を主とした基本的な生活習慣や規範意識の確立度合い。 ③人権侵害がなく、安全・安心な高校生活を送られているか。 ④生徒・保護者において、指導方針が理解と納得がなされているか。 	<table border="0"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>Ⓒ</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>A</td> <td>Ⓑ</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>A</td> <td>Ⓑ</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>A</td> <td>Ⓑ</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> </table>		A	B	Ⓒ	D	A	Ⓑ	C	D	A	Ⓑ	C	D	A	Ⓑ	C	D
A	B	Ⓒ	D																	
A	Ⓑ	C	D																	
A	Ⓑ	C	D																	
A	Ⓑ	C	D																	
11	成果・課題	総合評価																		
	<ul style="list-style-type: none"> ○刑法犯行為がなかった。 ○1学年を中心として「情報モラル」の指導を徹底したことによって、大きなトラブルの報告がなかった。 ○「規則やルールを守る」指導を進めたことによって、いじめ等の問題行為が激減した。 ●「身だしなみ」や「マナー」に関しては、改善されつつあるが、教員の共通理解がまだ不十分であり、指導が浸透していない。 ●自主的で、明るく元気な「挨拶」と、本校で学ぶ「誇りと帰属意識」の面で後退してきている。 ●登下校における交通マナーの悪さの指摘がなされ、指導が十分浸透していない。 ●「規則やルールを守る」という規範意識がまだ低い。 	<table border="0"> <tr> <td>総</td> <td>合</td> <td>評</td> <td>価</td> </tr> <tr> <td>A</td> <td>Ⓑ</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> </table>			総	合	評	価	A	Ⓑ	C	D								
総	合	評	価																	
A	Ⓑ	C	D																	
12	<p>来年度に向けての改善方策案</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全職員共通理解のもと、毅然とした姿勢・態度で、明確かつ一致した基準・期限による指導を、より徹底し継続して進める。 ・生活委員の意識を高め、日常生活態度や姿勢の改善及び提案活動を、生徒自身によって進める ・日常的に、生徒の生活状況や情報の把握を行い、早急かつ適切な対応指導を組織的に進める。 ・「交通マナーや情報モラル」を守ることの徹底を図るとともに、様々な人権侵害行為の未然防止指導を進める。 ・保護者や地域からの「学校への様々な声」を、真摯に捉え、迅速な対応を進める。 																			

2	評価する領域・分野	◇ 生徒指導（教育相談）
3	現状・生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・全体としては落ち着いて学校生活に取り組んでいるが、少数ながら学校不適応感を持つ生徒が見られ、それらの生徒に対して十分時間をかけ観察し、対応していく必要がある。
4	今年度の具体的かつ明確な	<ul style="list-style-type: none"> ・相談活動や情報交換を不断に行い、情報を共有し関係者との連携を

重点目標	図り、高校生活への適応と自立への援助をする。	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	・HRT や学年会との連絡・連携を密にし、情報を共有して生徒への理解を深めながら対応する。	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1) 学校不適応傾向生徒に関する情報交換 (2) 日常的な教育相談活動の実施(迷惑調査等)	(1) 情報交換が不断に行われているか (2) 調査をふまえた相談活動が実施されているか	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
・HRT および学年会との連絡・連携の実施 ・学校不適応生徒についての教科担任会議の実施	①情報が偏ることなく収集され関係者に正確に伝わっているか ②共感的な生徒理解に努めているか	A (B) C D A (B) C D
11 成果・課題	○ 学校不適応生徒に関して、情報を収集し関係者との連絡・協議・連携を行いながら指導に努めることによって、関係者に理解を得ることができた。 ○ 職員会において必ず生徒に関する情報交換を行うことで、生徒への共通理解が深まり、具体的な指導ができた。 ● 学校不適応生徒への対応にあたり、保護者との協議がまだ十分とはいえない。 ● 学校不適応生徒に関する専門機関からの情報収集が不十分である。	総合評価 A (B) C D
12 来年度に向けての改善方策案 ・学校不適応生徒に今以上に対応できるよう専門機関への連絡・連携が強く求められる。 ・各学年に生徒相談係を位置づけ、担当者には同年度に生徒相談に関する研修を受講してもらう。 ・学年会が中心になって、話題になった生徒の問題点を把握してもらうことで、教員個人で問題を抱え込むことなく組織として対応する。		

2 評価する領域・分野	◇進路指導	
3 現状・生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	・生徒は、本校の進路指導を全体的には肯定的に評価していて、特に個別の情報提供や指導に対してより関心を持っている。 ・保護者は、本校の進路指導を全体的には肯定的に評価しているが、生徒の適性・能力に見合った指導を求めている。 ・模擬試験等を行った後の対応が不十分である。	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇3年間を見通した進路指導計画に基づき、各種調査・模擬試験・進路教材等を活用する。 ◇生徒・保護者・職員に向けて進路情報の提供を充実させる。	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	・進路指導部 ・各学年会との連携	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1) 進路指導計画に基づいて、進路学習や小論文学習の計画を見直す。 (2) 模試のデータ分析を充実させて、教科毎の指導に活かす工夫をする。	(1) 進路研究や小論文学習を通じて、各自の進路意識が深められたかどうか。 (2) 模擬試験等の結果が、教科指導等に活かされているかどうか。	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
・総合的な学習の時間を活用して、進路研究を充実させる。	①進路に対する自分の考えを深めて目標の設定ができたか。	A (B) C D

<ul style="list-style-type: none"> ・小論文学習により、社会に目を向けせるとともに、進路実現のための力を身につけさせる。 ・模擬試験等の結果分析を充実させ、進路実現のための資料提供を充実させる。 	②情報を分析して、自分の考えをまとめる力がついたか。 ③模擬試験等の結果を分析し、受験指導等に活用できたか。	A (B) C D A (B) C D
11 成果・課題 <ul style="list-style-type: none"> ○総合的な学習の時間を計画的に活用して進路学習ができた。 ○小論文指導の計画を見直し、計画的な指導を行うようになった。 ○模試データなどがより広く検討されるようになった。 ●生徒の進路実現に向けての学習意識は、3年間を見通したものになっていない。 ●模試の結果分析について、職員の要望に応じているが、まだ不十分である。 		総合評価 A (B) C D
12 来年度に向けての改善方策案 <ul style="list-style-type: none"> ・3年間を見通した進路指導計画に基づいて、生徒の学習に対する意識付けを行う。 ・引き続き模試データ等の資料提供を、より効果的なものにするための方策を研究する。 ・学校全体での進路指導の充実をはかる。 		

2 評価する領域・分野	◇ 特別活動部	
3 現状・生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会行事（球技大会・柏葉祭等）に充実感や達成感を味わっている。 ・部活動は活発であると感じ、積極的に参加している。 ・保護者からは、上記のいずれも教育的価値は高いと理解し、こどもの成長に期待感を示している。 	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇生徒会行事や諸活動を通して、生徒相互の連帯感及び好ましい人間関係を深めさせる。部活動は、目的意識を持って積極的に参加できる部活動の活性化を図る。ボランティア活動が主体的に取り組めるように、必要な援助を行う。	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・特別活動部会（週1回） ・部活動運営委員会 ・部顧問会議 	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1) 執行部会・生徒議会・各種委員会活動の活性化 広報活動の活性化 (2) 部活動の形態・内容・方法・環境整備等の援助 部紹介・壮行会・伝達表彰の実施	(1) 球技大会及び柏葉祭等 生徒会行事への取り組み状況 アンケートの実施とその結果分析 (2) 部活動予算及び備品請求の配分・部活動参加人数 入部状況・部活動実績・活動場所及び施設使用状況	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会諸行事に向けて執行部会（随時）、生徒議会、体育委員会、文化委員会、柏葉祭実行委員会等の会議の開催と、広報活動による情報提供 ・部紹介、壮行会、伝達表彰の実施 ・部活動費及び備品費の適正配分と活動環境の整備 ・和光園訪問など定期的なボランティア活動の実施 	①生徒会活動を活性化させ、球技大会・柏葉祭等の諸行事に充実感や達成感を味わせることができたか。 ②目的意識を持って、積極的に部活動に参加させることができたか。 ③ボランティア活動に主体的に取り組ませることができたか。	A (B) C D A (B) C D A (B) C D
11 成果・課題	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒会行事において、それぞれのねらいに応じた全校生徒の主体的な取り組みと協力体制により、その行事の成果に充実感や達成感を味わうことができたのではないか。 ○部活動の状況について、年間を通し目的意識を持って積極的に参加することができた。 	
	総合評価 A (B) C D	

題	<ul style="list-style-type: none"> ○和光園交流で、清掃活動やプレゼント等のボランティア活動に積極的に取り組んだ。 ●柏葉祭や球技大会など諸行事の運営や規律等を一層充実させる手立ての検討 ●部活動の予算配分や活動施設・設備等を充実させることの検討
---	---

12 来年度に向けての改善方策案
 生徒会活動（執行部・議会・各種委員会活動等）のより一層の活性化を図るとともに、生徒会行事を通して集団への所属感や生徒相互の連帯感及び好ましい人間関係を深めさせたい。
 部活動を通して責任感や連帯感等の人間関係を形成するため、目的意識を持って自主的、自発的に部活動に参加できるように指導・援助をしたい。

2 評価する領域・分野	◇ 保健管理・安全管理
3 現状・生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度は昨年より肯定的意見が上回り、生徒・保護者ともに高い評価を得ることができた。 ・健康面での生徒への対応、保護者への連絡、また、環境面では事務との連携による早めの対応等しっかりできている。
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 各種検診の受診結果を把握、自己の健康管理ができるようにする。 ◇ 事故防止や安全管理に対する意識の高揚に努める。
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校保健委員会、安全衛生委員会 ・ 生徒保健委員会

6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標
<ul style="list-style-type: none"> (1) 各種検診の事後措置、健康相談 (2) 生徒対象の保健だより 	<ul style="list-style-type: none"> (1) 検診後、精密検査等の再受診率 (2) 日本スポーツ振興センターへの災害報告等

8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
<ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒個人への受診勧告、健康相談保健だより等での健康面の啓発活動 ・ 職員・生徒への事故防止の周知徹底 体育授業時、部活動時での事前指導 ・ 毎月1回、職員による施設等の安全点検 環境委員によるゴミの分別収集 	① 生徒の健康管理	A (B) C D
	② 事故防止	A (B) C D
	③ 安全管理、環境整備	(A) B C D

11 成果・課題	<ul style="list-style-type: none"> ○各種検査、健康診断は職員の協力や生徒の受診態度も良く、滞りなく実施できた。再受診の生徒については、職員会議での報告により全職員に把握してもらい、HRTとの連携を密にして生徒の健康管理に努めた。 ○日本スポーツ振興センターに申請した生徒のけがの件数は、昨年よりやや多かった。しかし、高額医療費の申請については1件もなかった。 ●毎年の課題でもあるが、眼科・歯科についての再受診率が低い。再勧告書を提出するとともに、生徒個人にも直接促しているが今一步である。 ●基本的な生活習慣や、安全面において注意を要する生徒への指導。 	総合評価
		A (B) C D

12 来年度に向けての改善方策案
 ・昨年度のような新型インフルエンザの流行はみられないが、予防接種等、感染症に対する意識を早めに促していきたい。
 ・学校管理下の事故、けがについては事前に十分な注意を促すとともに、生徒自身の体調管理や安全点検等の環境整備に努めたい。

2 評価する領域・分野	◇図書部（学習環境・文化活動）
3 現状・生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	利用者に対して「快適な図書館」を提供することが求められている <ul style="list-style-type: none"> ・ 図書資料の充実と迅速な情報提供 ・ 一人でも多くの生徒職員に利用される魅力ある図書館

4	今年度の具体的かつ明確な重点目標	(1)小論文・課題研究等のための資料収集と情報提供 (2)図書館資料の効果的利用及び読む力と自ら考え問題提起できる力の育成 (3)豊かな読書生活を展望できるきっかけの提供		
5	重点目標を達成するための校内における組織体制	・図書運営委員会（職員/年2回） ・図書選定委員会（職員/年9回） ・生徒図書委員会（生徒職員/随時） ・図書部		
6	目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標		
	(1) 図書館主催の諸行事と図書館の諸発行物 (2) 校内の幅広い意見をもとにした企画運営	(1) 行事や発行物の到達したい客観的知的水準と文化性 (2) 利用者と企画運営に取り組んだ生徒の満足度		
8	取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価	
	①入試/理数科課題研究/授業などに対応した資料の収集 ・新刊紹介や設定されたテーマなどについての情報紙（図書館発行）を使った迅速な情報提供・図書委員会の広報活動など自主性を発揮した活動 ②「現代フォーラム」（2回実施）と岐阜県図書館などからの図書借入（相互貸借） ③図書館の環境整備	①生徒職員の要望にこたえる「快適な図書館」へ、どの程度接近できたか ②生徒の知的文化的要求に応えることができたか ③施設設備は充実したか	A (B) C D A (B) C D A B (C) D	
11	成果・課題	○これまで積み重ねられてきた本校の図書館活動を継承実践できたこと ○現代フォーラム・理数科課題研究・入試小論文など、読んで考え、意見を持って発表する力を、幅広く育て、生徒が自信を持ってきていること ○特に、現代フォーラムは、これまでにないパネリストと会場の一体感を生み出すことができたこと ●図書委員会の自主的自立的な活動をよりいっそう保障していく課題 ●「利用者の求める本」「生徒に読ませたい本」の充実を図る課題		総合評価 A (B) C D
12	来年度に向けての改善方策案 ①読書をいっそう促すような方策を検討する ②生徒や職員からの希望図書を増やす方策を検討する			

2	評価する領域・分野	◇育友会員との連携		
3	現状・生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	・育友会活動に、より多くの育友会員が意欲的に参加するために、どのように企画運営していくか。		
4	今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇育友会員に対して、育友会主催行事への積極的な参加・協力を促す。		
5	重点目標を達成するための校内における組織体制	・本部役員や学級委員、そして地区委員の方と連携し、保護者と学校の信頼関係を深める。		
6	目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標		
	(1) 育友会主催の行事に対して、事前に役員会を開き、綿密な計画を立て、円滑に運営する。	(1) 育友会員が意欲的に参加し、行事に満足できたか。		
8	取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価	
	・文化祭バザー、環境整備作業	①参加者の活動状況	(A) B C D	

	・進路フォーラム、大学等見学会	②パネリストの意見内容	Ⓐ B C D
	・地区別懇談会	③参加者数、懇談会の内容	A Ⓑ C D
11 成果 ・ 課題	<p>○進路フォーラムでは、パネリスト（卒業生3名、保護者3名）の皆さんの経験談を聞き進路選択の参考になったと、参加者に好評であった。</p> <p>○大学等見学会を金沢大学と金沢工業大学で実施した。</p> <p>○環境整備作業では、酷暑の中、生徒や職員を含め約100名の協力を得ることができた。</p> <p>○多くの育友会員の協力により、文化祭にバザーという形で参加することができ、生徒に喜んでもらった。</p> <p>●地区別懇談会は、85%という高い出席率を保っているが、内容に問題があり、あり方を検討しなければならない時期にきているのかもしれない。</p>		<p>総合評価</p> <p>Ⓐ B C D</p>
12	<p>来年度に向けての改善方策案</p> <p>・地区別懇談会のあり方を検討する。</p>		

II 学校関係者評価

実施年月日：平成23年1月18日

<p>【意見・要望・評価等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒、保護者のアンケート結果が昨年度に比べ、どの分野でも評価が良くなっていることに対して、教職員の努力が認められた。 ・学校の情報を地域に流し、地域から愛される学校となるようにさらに努力すべきとのアドバイスがあった。 ・生徒達の学習への意欲を高めるために、キャリアガイダンスをさらに充実させ、将来への目的意識を持って生活させることが大切ではないかとの意見があった。 ・学校の特徴や目指すところをさらに明確にして、それを外部へアピールしていくことが大切であるとの意見があった。 ・飛騨地域は、進学に対しての情報、刺激が少ないので、他地域や他県の先進校との交流を図り生徒達へ刺激を与えて欲しいとの要望があった。
--